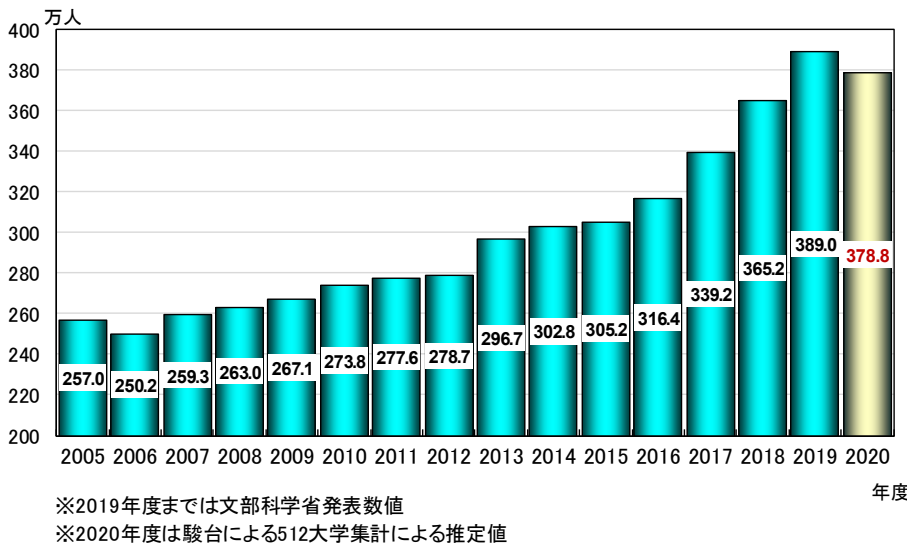


2020年度入試状況分析【私立大】

◎志願状況全体概況

□延べ志願者数は14年ぶりの減少

〔私立大一般選抜入試 志願者数推移〕



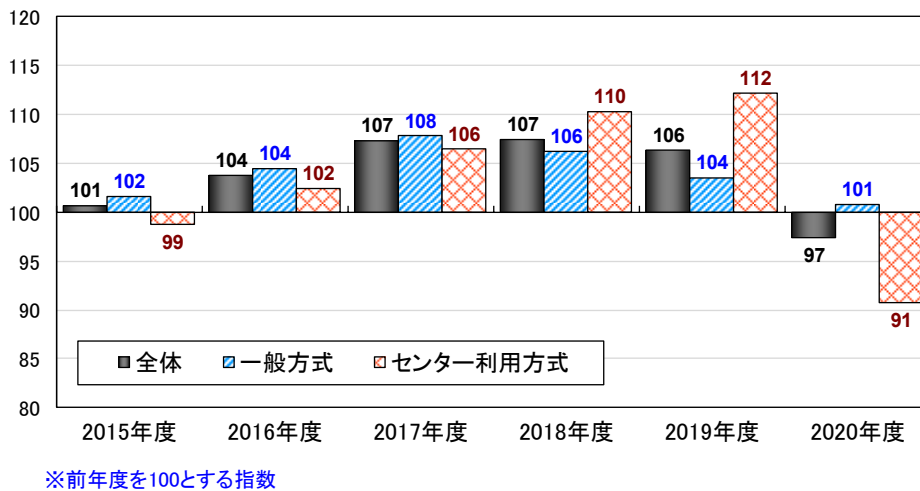
駿台が志願者数の確定した募集単位を集計した512大学の一般選抜入試(AO・推薦入試等の特別選抜入試を除く)の延べ志願者数は、376.7万人(97)で前年度より約3%減少しました。

この数値から推定される最終的な全私立大の延べ志願者数も14年ぶりに減少して、379万人前後になるものと予想されます。これは、2020年度入試では、前年度の弱気な出願動向、いわゆる「安全志向」

により、難易度レベルを下げて大学に進学した受験生が多く、これにより既卒受験生が減少したことに加えて、結果的には先送りになってしまいましたが、2021年度に予定されていた大きな入試改革への不安から、前年度以上に中堅校のAO・推薦入試といった特別選抜を利用して大学進学を決定した受験生が多かったことが減少の大きな要因といえます。

□センター利用方式は5年ぶりの減少

〔私立大一般選抜入試 方式別志願者数 前年度対比指数〕



入試方式別では、一般方式(101)が微増の前年度並になっているのに対し、センター利用方式(91)は10%近いはっきりとした減少となりました。

センター利用方式は5年ぶりの減少で、新規に導入された募集単位を除くと、さらに大きく約14%も減少しました。この要因としては、過去2年間は一般方式を上回る増加率で競争が厳しくな

って合格目標ラインが高くなったことによる敬遠傾向と、2020年度センター試験の平均点ダウンによりセンター試験後に出願可能な募集単位への出願が慎重になったことなどが考えられます。